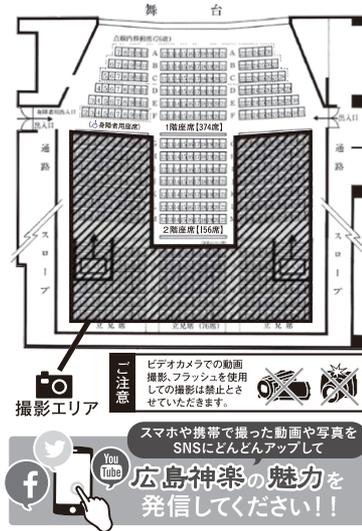


「広島神楽」定期公演へようこそ!

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアをお願いいたします。



本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
(1)座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
(2)上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
(3)お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
(4)撮影について
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※**ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

10月18日のタイムスケジュール

出演：上川戸神楽団（北広島町）
19:00～開演
19:05～第一幕『日本武尊』
(およそ40分)
～幕間(休憩)～
20:00～第二幕『大蛇』
(およそ40分)
20:45～記念撮影会
衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。本日の記念に是非ご参加下さい。
また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。
(舞台へは靴を脱いでお上がください。)
※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

かみかわどかぐらだん

上川戸神楽団プロフィール ～山県郡北広島町～

上川戸神楽団は、熊野神社の氏子三十数戸の中から結成され、古くから舞い続けられた郷土芸能・神楽を受け継ぎ、その継承に少ない団員にもかかわらず、一生懸命頑張っています。

また、受け継いだものには舞の他、木彫りの面や草木染めの衣装、神鎧など貴重なものもあり、町の伝承館でも展示や保存をいただいています。

先輩・後輩一緒になって、伝統の郷土芸能・神楽の伝承に今後とも努めてまいりますので、ご声援、ご指導よろしくお願いいたします。

第一幕『日本武尊』(やまとたけるのみこと)

日本武尊(やまとたけるのみこと)は妻・弟橘姫(おとたちばなひめ)とともに東征に旅立ちます。途中、熱田神宮に参拝し、叔母・倭姫宮から天叢雲剣を授かり、喜び勇んで旅を進めます。しかしその道中、道案内者が現れ、命を山狩りに誘います。誘われた尊はその賊に謀(たばか)られ、焼き殺されそうになりますが、神剣の威徳によってその難を逃れ、見事、賊を退治します。
草を薙ぎ払って危機を救ったことから、命はこの不思議な神剣を草薙剣(くさなぎのつるぎ)と名付けるという物語です。

【出演】	大太鼓 … 藤井 徹	日本武尊 … 石橋 孝征	賊 頭 … 大上 顕男
	小太鼓 … 天玉 美里	姫 … 片岡 泰英	賊 … 天玉 篤史
	手打鉦 … 森脇 満		賊 … 日高 昌文
	笛 … 山田 かな		

第二幕『大蛇』(おろち)

出雲国・簸の川の川上で八人の姫を育てていた老夫婦でしたが、年ごとに七人の娘たちが大蛇に取られてしまいました。老夫婦(足名植、手名植)が八人目の姫を中心に、嘆き悲しんでいたところへ素戔鳴尊が通りかかり、その訳を聞き、大蛇退治の策をたて、大蛇退治を申し出ます。
七人目の姫が大蛇に取られるところから神楽が始まり、後半では大蛇四頭の酒飲み、そして、激闘へと場面は展開します。素戔鳴尊は十握の剣を持って見事大蛇を切り刻み無事退治します。その切り裂いた大蛇の尾の中から一つの剣が出てきました。これが天の叢雲の剣、後に草薙の剣といわれる物で、その件を素戔鳴尊は天つ神に献上されました。

【出演】	大太鼓 … 石橋 孝征	素戔鳴尊 … 藤井 和則	大 蛇 … 宗広 千寿
	小太鼓 … 天玉 美里	足名植 … 天玉 篤史	大 蛇 … 藤井 徹
	手打鉦 … 森脇 満	手名植 … 天玉 良	大 蛇 … 日高 昌文
	笛 … 山田 かな	姫 … 片岡 泰英	大 蛇 … 大上 顕男

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。